



前回に続き、3年生の夏の取り組みについて御紹介します。

今回のテーマは「リケジョ」です。リケジョとは、理工系の分野で学んだり研究したり、あるいは実際に働いている女性のことで、将来の人材育成のために、中高生向けの催しも多く行われています。この夏、「女子高校生夏の学校 ～科学・技術・人との出会い～ 2019」に参加した感想です。

私は、8月の9～11日の3日間、埼玉県で行われた「女子中高生の夏の学校 2019（夏学）」に参加してきました。全国から集まった中学3年生から高校3年生までの計100名が、様々な活動や講座を通して、理系分野について学びを深めました。

私は、ド・モアブル班で中3が2人、高1が2人、高2が2人のとてもバランスの良い班構成でした。北海道から来ている子もいて、地元のことを話したりするのがとても楽しかったです。

1日目は、大学生のTAの皆さんと、将来子育てを優先するか、仕事を優先するかということについてディベートをしました。同じ年なのにすごくハキハキしゃべる子もいて、すごいなと思いました。

夏学は8時集合、20時解散の超ホワイト生活で、深夜まで同部屋の子と話したり、トランプをしたりしていました。

2日目は、選択制で、私は「マイクラフトで好きな土地に家を建てよう」という講座を受けました。2人1組で作ったのですが、私は名古屋の高1の子とペアになって、試行錯誤しながら頑張りました。

3日目は、夏学の3日間に経験したことをもとに「キャリアプラン」の発表をしました。将来のことを改めて考えるのは難しかったです。

私の夏学を通しての一番の思い出は、2日目の夕食のときの立食パーティーです。いつもは話せない他の班の子とも色々話をすることができて、とても楽しかったです。この3日間で、学校では体験できないような実習や講義、他学年とのふれあいなど様々な経験をすることができました。高校生も参加できるので、今後、興味がある人はぜひ参加してみてください。(3年 近縄さん)



※「女子中高生の夏の学校 2019（夏学）」について、紹介します。主催は、NPO法人「女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト」。この法人の目的は、「理工系への進学や分野選択で悩んでいる女子中高生に、研究者や技術者が幅広い分野の科学や技術の魅力を伝え、その交流を通じて、女子中高生が具体的に自らの理工系キャリアパスを描くことができるよう支援すること」だそうです。



中学生や高校生向けに、大学やNPO法人が様々な講座を設けています。文科省や各大学のHPを見るだけでも、その様子が想像できます。

中学生にとって、夏休みはとても貴重な時間ですが、ますますその使い方が問われることになっていきますね。

2019.9.17 副校長 山部